

# 弓道ながの

第85号

発行：長野県弓道連盟  
会長 松島貞治  
〒399-1801  
下伊那郡泰阜村4139  
TEL0260(26)2628  
編集：県弓連部  
印刷：県成進社印

## 巻頭言

### コロナ禍の後

長野県弓道連盟副会長 山田雅亮



令和五年度がスタートするに当たり、会員の皆様には、一年間の計を思い巡らせておいでのこと

としたいと思います。県弓連の諸行事も、コロナ禍の収束に伴い、予定通り実施できることを願っています。

多くの行事がコロナ禍の影響を受けてきましたが、審査につきましても、その形式が随分変化しました。中でも、一昨年実施された、中高生対象の『ビデオ審査』には、当初、暗中模索に似た戸惑いがあり、又、実施後も、様々な功罪が指摘されました。

その後、新型コロナウイルスに対する対策の変化に対応して、昨年度は、従前に近い参集式で行われるようになりました。ところが、審査を実施してみると、実技審査における受審者の体配が、基本的な所から乱れている様を、数多く目にするようになりました。



道経験のある指導者が校内にいないという学校もあるのが実状です。例えば審査の事前講習会等で、実際に見て、自ら経験することも、大切な稽古だと思っています。

講習会では、見取り稽古も重要なことで、参加する楽しみでもあります。講師の先生や他の受講者の射姿を、実際に拝見することによって、得るものが沢山あります。更に、自分自身の思わぬ欠点に気づかされることも少なからずあります。目から入る情報は、稽古には大変重要なものだと思います。

最近、中学校のクラブ活動が話題に上っていました。顧問の先生に対する負担を軽減しようということが発端で、社会体育活動に、専門的な技能を持った指導者を求める提案が報じられていました。組織によって各々の特性が違いますので、様々な課題があり、一朝一夕には進んではいけないようですが、早期の進展が望まれます。

学校のクラブ活動に限ったことではありませんが、指導を受ける側のことを第一に考えた上で、指導する側が、正確な内容を伝えるための環境を整えることも重要であるということを、改めて認識させられました。

# 新任役員挨拶



長野県弓道連盟  
新副会長 宮坂 博之

## 副会長として

令和五年四月より二年間、南信地区の副会長として、心も新たに就任をいたします。

「また?」とか「返り咲き?」と言われながら、松島貞治会長や既に活躍されています副会長の皆さんと、心を合わせ県弓連の会員皆様のために、頑張っていこうと思います。

さて、具体的には……

昨年一昨年と五段以下の審査会を見させていたただく機会が何回かありました。初めのうちは「そうかなあ」と思いながら見ていましたが、昨年の秋の審査会では、なかなか審査にならない受審者が多く心が潰れる思いでした。やらなければいけないことが全くできていません。それは、体配にしても射にしても同じです。何故やらなければいけないのか、どうしてそうなるのか、何故それをするのか、が分かっているという事です。

矢は飛ばせば良いというものではありません。上辺だけの弓であれば「弓道」は要らないという事になります。「弓」で充分です。これは教える側の問題だと考えるのではないのでしょうか。

私達は何方か先生から手ほどきを受けて、弓の道を歩き出します。しかし歩き出せたからといってそれで良いわけではなく、更に奥へと向かわなければいけません。矢が的に飛ばせば良いというのであれば、それも弓だと思えますが、段など必要ありません。段を進んでいくのには、正しい射と体配そして心が必要です。これからの二年間、私達地区の副会長は力を合わせ、指導部に協力を仰ぎ、また地域の先生方にも協力をお願いし、四段以下の弓士の方々に何回か講習会を行い、長野県の「弓道」のレベルを上げていきたいと思っています。

それには、私達教える側の勉強、そして稽古も必要だと考えます。そのための研修会も開きます。教える側が好き勝手に教えていたのでは、教わる方はなかなか道を歩くことは難しいと思います。私達は弓道の長い歴史と伝統の中の「今」を歩いています。そして伝統を継承していく義務があります。「そんな重いこと……」と思うかも知れませんが、そうしなければいけません。伝統には決まった定義があります。「伝統とは、永遠の変わらぬ本質を持ちながら、生きて流れるもの」と言うのです。変わらぬ本質とは、昔の人のコピーやどぞの先生のまねではありません。そんな上辺だけの形ではなく、心が通っていないといけないのです。生きて流れている心がなければいけないということです。そこに感動する射が生まれてくるのです。色々な射があつて良いと思います。がしかし、そこには先ず、変わらない本質(正しい体配と射)がなければいけません。皆さん!一緒に学び一緒に歩いていこうではありませんか。

# 退任役員挨拶



長野県弓道連盟  
前副会長 北嶋 晋

## 退任の挨拶

私、北嶋晋(カルロス・キタジマ・フエンテス)は二月二十六日をもって長野県弓道連盟副会長を退任いたしました。一期二年間はコロナの中本来の仕事も十分にできないままではありましたが、ビデオ審査、高校生だけの審査、ねりんピツクの再開など数多くの方々のご協力のおかげで実施することができました。至らなかつた点など多々あつたであろうと思いますが、皆様方への感謝の気持ちでいっぱいでありたいです。本当にありがとうございました。コロナの影響で稽古ができない日が続きました。審査に於いて射技のレベルの低下が如実に表れました。日々の鍛錬の大切さが身に染みるほどわかりました。

現在まで高校では外国語を担当し、部活動は伝統的な武道の一つである弓道を指導してまいりました。Think globally, Act locally. 今後もこれをモットーにして弓道に関わっていく所存であります。ありがとうございます。Hasta la vista. (アスタ・ラ・ビスタ)



### 感謝の想い

長野支部 教士六段 松下はるみ

「いつか、合格できる日が訪れるのだろうか」  
そう思っておりまして。

この日を迎えることができましたのは、ご指導いただいた先生、先輩、弓友、全ての皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

平成十四年、長野市初心者弓道教室で、弓を始めました。すぐに道場が改修工事となり、善光寺弓道場に一年程お世話になりました。先生方、先輩の皆様にご指導いただいた事は、大変貴重な体験でありました。当時、齋藤先生がお茶を入れてくださり、皆様と頂きました。遠い昔の事のように、又、昨日の事のように、懐かしく思います。

その後、運動公園弓道場で学ばせていただき、範士の先生方、多くの道場の皆様には、朝早くからの的的準備から始まり、夜遅くの後片付けまで、お世話になり、日々、支えて

いただきまして、感謝しております。

「まだまだ力不足だけれど、審査会の日がやってきてしまった。今までお稽古してきた事しかできない。今できる事を精一杯やるしかない」と思ったのが一週間前でした。

しかしながら、二次審査では、控えで待つ間に「何とか一本入って欲しい。一本目に入ったら楽になれる」と、願う自分がいました。そうして「一つの」が始まり、放たれた矢は、正直的の外へと飛んでいきました。不様な残心となり、恥ずかしく思いました。

直ぐに、次の矢を引かねばならぬ。どうすればいい。その時、先生に言われた言葉を思い出しました。「力まず、のびのびと」。

今回の経験で、自分の心の弱さを思い知らされました。課題がまた一つ、増えました。

論文は、「射品射格の向上を図るためにどのような修練が必要か」が、課題でした。教本を開き、日々の稽古の在り方、心の持ち方、基本の大切さを見直しております。

いつものように、お稽古に通う日が始まりました。

これからも、修練してまいります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



## 弓道合宿予約随時受付中！

### 野辺山洗心弓道場

- 近的道場 18人立1ヶ所 (床暖房完備)
- 12人立2ヶ所
- 遠的道場 1ヶ所

### 帝産ロτζヂ

〒384-1305  
長野県南佐久郡南牧村野辺山1003  
HP : <http://www.teisanlodge.com/>  
ご予約・お問い合わせは 0267-98-2861

# 私と弓道

佐久支部 四段 白井 秀行

【真・善・美】弓道において最高目標とされる三文字。この三文字の中に果てしなく広がる大空のような壮大さを感じつつ日々の修練に励んでおります。私が弓道と出会ったのは高校時代。部活紹介で弓道部の実演があり、その格好よさに



衝撃を受け入部したという所謂よくあるパターンでしたが、それが私と弓道の出会いです。私の高校は学校長に蟻川匡史先生、顧問の先生方に、山浦博先生、増田亮先生。まるで弓道のための高校なのかと思うほどの素晴らしい環境でした。初めて買った鞆の鞆袋には【真・善・美】の文字があり、当時は浅はかにこの三文字を見ていました。こんなにも長い付き合いになるとは思ってもみませんでした。そして進学等で上京するのですが、不思議な事に「弓を引いている夢」を時々見るようになりました。

やはり高校時代の濃密な弓道生活が、いつの間にか自分の深層心理の中に深く刻まれているのだなと思えました。かれこれ二十年程の歳月が経ち、家業を継ぐため戻ってきたのを機に再び弓を引きたいと強く思いました。そして意を決して山浦先生に連絡を取り、そこから私の第二の弓道人生がスタートしたのです。弓道を再開し数カ月後、昇段審査を受

審した時のことです。行射後、同じ立ちの方々とお話する機会があり、約二十年ぶりに弓道を再開したことを話したらきつと驚くと思いきや、意気揚々と話したら「実は私です」もう一人の方は「私は三十五年ぶりで」と。予想外の答えにまんまと返

り討ちに遭い、心底驚いた次第です。弓道は生涯スポーツ、年齢は関係ないと身をもって体験したところです。弓に惹かれ弓を引き、まだまだ若輩者ですが驕らず、高ぶらず、悲嘆せず、謙虚な心を大切に、これからの弓道人生を存分に楽しみたいと思います。

# 令和五年度 評議員会

令和五年二月二十六日(日)松本市勤労者福祉センターに於いて、令和五年度評議員会が開催されました。役員改選の年でもありましたが、会長はじめ副会長、その他の役員も決定し、思いも新たに新年度のスタートを切りました。



## 役員名簿(令和5年度)

名譽会長	外蘭 公毅
会長	松島 貞治
副会長	宮坂 博之
理事	山浦 博
常任理事	奥山 誠治
	山田 雅亮
	清水 史明
	中山 光康
	新津 一夫
	永藤 聡
	篠澤 英次
	内山 喜照
	中田 美千
	高砂 健司
	加藤 修平
	細田 尚
	押金 孝
	小池 君男
	深澤 健二
	上條 寛
	萩原 秀紀
	木下 克彦
	飯塚 邦洋
	辰野 正雄
	樋口 浩昭
顧問	大久保秀雄
県弓協評議員	杉田 博
	土川 俊市
事務局長	中山 光康
	県弓連会長

# 弓仲間紹介

## わが身に反求する

下諏訪弓道部 杉山 清

下諏訪町弓道部の活動の様子を紹介しつつ日頃の稽古を通じて感じていることを記したいと思います。当弓道部は諏訪大社下社のお膝元、下諏訪町にある弓道部です。ここ三年間は



コロナ禍のため様々な行事・大会は中止あるいは規模を縮小しての実施を余儀なくされました。そのような中、昨年八月の諏訪大社御射山祭奉納射会は第百回を迎えました。奉射のみでしたがなんとか伝統をつなぐことができました。日々の稽古も制約を受けないことが様々ありますが感染予防に留意しつつ皆で稽古に励んでいます。

ここにあるように、射は自分のあり様を問うところにその特長があります。わが身を振り返るといつても本人が一番自分のことがわかっていないことも多く、周りの仲間の助言や先生方のご指導が欠かせません。欠点を指摘されることは辛いですが指摘されたことはともかくやってみるといふ姿勢がわが身に反求することだと思っています。まさに射即人生と言われるゆえんだと思います。私自身、射の上達は本当におぼつかない状態ですが先生方のご指導を通じて様々な発見があり、弓道の奥深さを感じています。宮坂博之先生が常日頃おっしゃるように「薄皮がはがれるように少しずつできてくる」という言葉に導かれ、できないことはできることの積み重ねでいつかできていくものと信じ、これからも先生方や仲間のご支援に感謝しつつ日々の稽古に精進してまいります。

「射有似乎君子 失諸正鵠 反求諸其身」(射は君子似たるあり、諸

を正鵠に失すれば、かえって諸をその身に求む(諸をその身に反求す)(中庸)と書かれてあります。

# 令和五年度スタート！各事業部より



会長 松島 貞治

## 皆様の活躍を期待して

引続き会長として選任されました。よろしくお願いいたします。コロナ禍で振り回されましたが、五月九日以降、コロナ感染症の取扱いが変わるとのこと、全弓連も徐々にコロナ以前の運営に移行していく方針です。県弓連も状況をみながらコロナ以前、というか、新たな気持ち、方式で実施していければと思います。さて、昨年、底辺は広く、頂点は高くと申しあげ、その考えに変わりはありませんが、いま多様性が問われています。地元新聞のスポーツ広場の弓道欄を見ます。各地の射会の入賞者、成績が載っています。名前を見て顔が浮かんでくる方もいますが、そうでない方もいます。それぞれの地域で弓道に取り組み、楽しんでいらっしゃるのだからと推測します。仕事、家庭を持ちながら弓道を楽しみ、限られた大会、

射会にしか出られない弓士の方々も多くいます。それぞれ地域の中で、様々な弓道への取り組みがあると思います。その皆様あつての弓道連盟だと考えております。

また、射技向上を目指しながら審査を受ける方も多くいます。私もその一人です。七十歳までと思っていたのですが、人前で引くことも考えると、審査準備で下手なりに稽古しますので、審査も勉強です。審査では、あつという間に昇段、昇格する方もいます。なかなか昇段、昇格できない方もいます。また、うまく引けない時期が長く続くこともあります。それでも良い明日を信じて稽古を続けるのが弓道人かと思えます。弓は、人との争いではありません。自分を見つめる武道なので、まさに自分のペースで取り組み少しでも前進できれば最高です。

令和五年度の会員各位の活躍を期待しております。各事業部の皆様にもお世話になりますがよろしくお願いたします。



総務部長  
中山 光康

### 新年度に向けて

新型コロナウイルス感染症が発生してから何年も過ぎました。社会も徐々に元の形へ近づくように変化をしてきている状況にあります。しかし、コロナウイルスは依然としてあるわけですので、それぞれ感染対策は行いながら活動を増やしていく状況になってきていると思います。支部対抗は二年、祝射会は三年開催できていません。本年は、感染対策を考えながら開催したいと考えています。また、地方審査会については全弓連の方針として、開会式などの実施や合格発表を当日行うことなどを各地連の判断で行ってよいとことが示されています。地連によって対応が異なる可能性があります。大会や審査会の参加にあたっては、実施方法をよく確認するようにお願いします。

さて、昨年暮れに全弓連から地連における納税についての指摘がありました。現在、税理士もお願いして対応してきているところですが、まだ不明確なことも多い状況です。この対応のためにも、より厳密な会計処理の対応をしていく必要

があります。お手数をかける部分もあるかと思いますが宜しくお願いします。会計処理を進める中で、修正が必要な部分があれば、直しながらやっていきます。

昨年度、令和十年度に長野県での開催が予定されている国民スポーツ大会(令和六年から国民体育大会から名称変更、略称は国スポ)の中央競技団体による正規視察が行われました。また、少し先のことですが徐々に国スポに向けての対応が出てくることになると考えています。なお、会場名は「長野県飯田運動公園弓道場」というのが正式名称となります。略称として「県営飯田弓道場」が使われることもあります。正式名称に馴染んでいってほしいと考えています。本年度も長野県弓道連盟の事業へご協力をお願いいたします。



指導部長  
新津 一夫

### 令和五年度にむけて

令和四年度は、県連会長・県連役員・各支部長様にお世話になり、また皆様には指導部の活動にご協力いただきまして

誠にありがとうございました。地方委員資格更新・弓道コーチ1取得免除申請等も終えることができました。

さてコロナ禍ではありませんでしたが、なかなかできなかった支部又は弓道会の弓道教室もほとんどのところで実施いただき、県の底辺拡大にご尽力いただいたことも県連役員共々ありがたいと思っています。

四年度の指導部が計画した講習会が指導部員の創意と工夫でコロナの感染をしない、させない事に注意を払いながら全て実施できましたことに、部員各位に感謝をしたいと思います。上級者講習会・中級者講習会の他に、五段・錬士・教士研修会と教職員講習会と目的別に開催することで、昇段・昇格のきっかけとなるよう講習会内容を模索しながら実施いたしました。すぐにはできなくても気を付けて稽古することで目標達成できると講習を終えて感じました。

さて五年度の計画ですが、コロナが収束していない中、四年度同様に感染防止を図りながらも従来の伝達講習会が開催できるように、北信越指導者講習会の受講・地区育成講習会への派遣をして県の講習会の実施をしてまいります。さらに、地方委員資格の更新・免除申請のための講習会の計画、全県講習会として、目的別の講習会の実施、今年度は新たに武道館事業として、武道指導者の育成講

習会を全弓連より講師を派遣いただき実施をしたいと思えます。

昨年に引き続き教士研修会を実施して地元での指導に役立てていただきたいと思いますので、県の底辺拡大のため、支部長・弓道会の教室開催にご尽力いただければ幸いです。

コロナの収束を願いながら、五年度の活動を進めたいと思います。



強化部長  
永藤 聡

### 新年度を迎えて

令和五年度の長野県弓道連盟の新体制にて再度強化部長をさせていただくことになりました。永藤です。昨年は、全種別で北信越敗退という結果でした。本年はその責任を果たすため精一杯精進していきたいと考えております。

コロナ以前、長野県は国体において優勝や入賞の常連であり、入賞を逃すことは十年に一度あるかないかという状態でした。そのほぼすべては、過去の強化部長や会長先生の残してくれた人材で成し遂げられたものです。本年度の国体で成績を残すことは当然ですが、五年後

の長野国民スポーツ大会に向け、またその後の人材を発掘すべく本年は事業を行っていききたいと思えます。

具体的には、国体終了後の十月から十二月の県弓連の行事の無い土日祝日に、高校の部活や各弓道場の弓道会に団体選手と強化部員を派遣して、研修を行うというものです。もちろん依頼があればの話ですが、交通費や日当は長野国スポの強化費を充たいたしますので、依頼者側の負担はありません。依頼の取りまとはジュニア部の協力にて行います。希望がありましたら、ぜひ要請してください。

弓の引き方はたくさん方法があります。全日本弓道連盟でも打直しは二方法、引分けは三方法となっております。斜面打直しはまたその中でも細分化されるようですが、そのほかにも、妻手の拇指は弾くとか何もしないとか、弓手手の内は小指閉めろいや中指だとか、妻手肘は後ろだ前だ等、枚挙にいとまがありません。強化部ではそれぞれの方法についてためし、どのような使い方が良いか日々研究しております。長野県代表に決まった選手が、強化部員と違う引き方をしているからといって直すことはできません。その選手の引き方で一番いい方法を見つけ出したり、失敗しないやり方を一緒に考えております。ですから、そんな強化部員と団体選手を呼んで参考

にしていただけだと思います。

最後に余談ですが、「国民体育大会」は本年が最後となり、来年からは「国民スポーツ大会」と名称が変更されます。英語表記は「National Sports Festival」から「JAPAN GAMES」となります。なんか、どうですかね。



審査部長  
篠澤 英次

### 令和五年度の 審査事業について

令和四年度も新型コロナウイルス禍ではありましたが、参集方式という新たな方式で、県内審査会を開催する事ができました。これも関係各位のご協力によるものであり、心より感謝し御礼を申し上げます。

初めに、令和五年度の審査事業につきましてご案内いたします。本年度は、地方審査を十一回、連合審査会を二回と全十三回の審査会を計画しております。審査方式につきましては、全弓連からの方針も参考にしながら本年度も昨年同様コロナガイドライン対応による参集方式の審査会を予定しております。ま

た、学科審査につきましても、レポート式を継続し審査申込書と同時の提出方式といたします。

次に、昨年度からの変更点をご説明いたします。

○審査会の資格対象について  
一般と高校生以下の区分けはせず、一律での資格対象に戻します。

○審査申込締切日の期限について  
立順表の公開を早める目的で、締切日を審査開催日の十四日前から二十一日前に変更いたします。尚、各支部の締切日はそれ以前の設定となります。

○審査申込書の記入方法について  
従来通りの自筆記入も可能ですが、昨年より氏名箇所以外のパソコン入力も可能となっております。

○審査会の収支処理方法について  
全弓連からの指示により、県内の審査会は全弓連からの委託収支事業であるため、本年度よりその収支が税金対象の事業になります。従って審査収支の処理方法についても、幾つかの変更事項が発生します。

以上が変更点となります。  
審査会の実施要項は、審査開催時のコロナ感染状況等により、緩和の場合や中止に至る可能性も考えられます。変更の際は、県弓連ホームページなどでその都度お知らせいたしますので、最新の情報をご確認ください。

最後になりますが、本年度も受審者の皆様が安全かつ集中して受審できる

よう、審査部員も精一杯努めてまいります。審査収支処理方法の変更など、担当支部には多大なご不便をお掛けいたしますが、昨年同様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。



競技部長  
内山 喜照

### 令和十年 信州やまなみ 国スポに向けて

令和四年度は五つの競技会を計画し、多くの会員のご理解とご協力をいただき、変則開催ではあるものの四つの競技会を無事に実施することができました。改めて感謝する次第です。残念ながら最後の支部対抗競技会については、壮行会も合わせて直前に中止とさせていただきます。コロナ拡散防止のためやむを得ない判断ではありましたが、楽しみにしていた各支部代表の選手の皆様、準備をしていたいただいた役員の皆様には申し訳なく思います。令和五年度は五月頃にコロナ対応が縮小される見込みであり、徐々にコロナ前の形に戻していきたい

と計画しています。

さて、報道などで令和十年(二〇二八年)に第八十二回信州やまなみ国民スポーツ大会が計画されていることはご存じの方も多いと思います。国民スポーツ大会とは聞きなれない名称ですが、来年開催予定の佐賀大会から国民体育大会が国民スポーツ大会に変わります。競技の種別や方法はこれまでと変わらないう見込みで、弓道競技も飯田市での開催で調整が始まっています。

私たち長野県民にとつては昭和五十三年(一九七八年)のやまびこ国体以来、五十年ぶり二回目の開催となります。四十七都道府県が持ち回りで開催をします。約半世紀に一度やってくる一大イベントです。当時の弓道競技は現在の松本市護国神社の弓道場を会場にし、全国からの弓士を集めて遠的/近的の競技を実施したとのこと。遠的場はすでに撤去され、隔世の感があります。

そんな国スポまであと五年となりました。今年が鹿兒島、以降、佐賀、滋賀、青森、宮崎の順で巡ってきます。それに向けて様々な準備を始めていきます。競技会においては、支部対抗の遠的競技を現在の国体競技と同じ団体三人制の得点制(色的)にて実施していきます。これは普段あまり接することのない得点制の競技方法に慣れ、円滑な運営ができるよ

うにするための施策です。

国スポ弓道競技は、現在の規模ですと四日間の会期で各日100名超の競技役員が必要。多くの会員にご協力いただかなければ実現することができません。ちよつと気が早いようにも思いますが、どうぞご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



広報部長  
中田 美千

### 広報紙の役割を考えながら

昨年コロナ感染症の感染拡大状況は変わりませんでした。審査会、講習会、大会など、ほとんどの県連行事を予定通り行うことができ、紙面に掲載できました。まだまだ、地区の射会など地域限定など制限のある大会も多くありますが、大会結果をホームページに掲載する折に、写真を一緒にお送りいただくなどし、紙面の工夫をしながら、写真も掲載ができました。会員の皆様にはご協力を賜りまして、感謝申し上げます。今後はまたコロナ禍前のように行えることを願います。

会員の皆様からの寄稿や投稿、また大

会結果や審査結果など、できるだけ多くの情報を掲載し、見やすく分かりやすい紙面になるよう心掛け、記録の保存という役割を担うよう努めてまいりたいと存じます。

ホームページでは、四年度から担当者を二人体制にし、ご依頼いただいたものをより速やかに掲載できるようにいたしました。

ホームページへの掲載依頼のあったものをホームページ担当者、部長の三者が同時に受け取れるようにし、情報の共有、ニアミス防止対策をいたしました。

また、今までそれぞれの目的別にお送りいただいていた三種類のアドレスを一本化、それをホームページ公式アドレスとし、ご依頼しやすいようにいたしました。ご依頼いただいた情報を正確に、そして、迅速かつ適正に掲載できるように努めてまいります。

引き続き新型コロナウイルス感染症に関する特別枠で、国・県・スポーツ庁・全弓連・スポーツ協会など各方面から出される情報も提供してまいります。

今後五月には感染症法上の分類も2類から5類になり、ガイドラインなどの変更も予想されますので、各事業部とも協力しながら皆様の必要な情報をお手元に、迅速にご提供したいと考えます。

令和五年度も動き始めました。広報事業は皆様のご協力無くしては成り立ち

ません。周りで起きている「あんなこと」や「こんなこと」お近くの広報部員にお知らせいただきたいと存じます。皆様のご協力をお願い申し上げます。



ジュニア部長  
高砂 健司

### 高校の弓道クラブの現状

一般の会員の方々にとつてはジュニア部はあまり接点が多くないと思われ。ましてや高校生の弓道部員はまるでご存じない方もおられるかと思えます。ここで高校のクラブについて少し紹介したいと思います。

まず、ジュニア部は中高生の大会を中心に事業を行って。毎年配布される事業計画書に大会予定を掲載しておりますが、基本的に中学生大会と高校生の春の総合体育大会(総体)と秋の新人体育大会(新人戦)です。各大会の参加人数はかなりの数になります。中学生大会の長野県予選会は各支部の先生方のご尽力もあって、毎年参加者が増えています。高校生に至っては昨年の新人戦で一、二年生だけで1600人を超える参加がありました。少子化が叫ばれる中で



高校の弓道部員も減少していますが、これだけ多くの高校生が弓道をクラブ活動として選んでいることはうれしい限りです。この生徒たちが卒業後も就職後も弓を続けてくれたら...と思うのですが、残念なことに卒業後も続けたり就職後に再開する人は多くありません。残念なことです。

また、高校ではほとんどの学校に弓道部がありますが、必ずしも顧問の先生が弓の指導ができるとは限りません。公立校では数年で転勤がありますし、転勤先も選べません。顧問が手薄な学校に行ってもしっかり弓道の指導をしたいと思ってもできない状況があります。指導できる顧問がいない学校がある中で、有段者が三人も一校に集まってしまった学校もありました。これから高校でもクラブ活動の外部委託が検討されていけば、この問題は解決するかもしれません。私はいつも卒業する生徒に「将来一緒に弓を引よう」と伝えていきます。少しでも弓道人口が増えてくれればと願っています。



# 大会結果

## 令和5年 特別国民体育大会弓道競技 長野県成年男女一次選考会

○令和5年11月20日(日) 塩尻市営弓道場  
参加人数・男子18名、女子11名

### ▲成年男子9名

- 浦野幸二郎(上伊那)
- 保科 良介(上小)
- 蟹澤 史弥(上伊那)
- 小島 樹(上小)
- 小田切祐典(須高)
- 岩原 祐貴(諏訪)
- 岩村 拓生(飯伊)
- 蟹澤 契太(上伊那)
- 藤森千友貴(上小)

### ▲成年女子11名

- 大山 綾(松本)
- 藤澤 敏恵(長野)
- 中田 美千(松本)
- 高地美佐子(上小)
- 米持 奈々(須高)
- 平澤 玲奈(上伊那)
- 松井 邦江(松本)
- 小原 弓佳(上小)
- 吉江 美佳(松本)
- 中島 冬萌(長野)
- 馬場 絢音(上伊那)

## 第31回中野冬季百射会

○令和5年1月29日(日) 中野市弓道場

### ■一般個人の部(射数50射)

- 1位 藤澤 千章(山ノ内)
  - 2位 郷道 隆志(中野)
  - 3位 原田 正浩(中野)
- 28 30 34  
中 中 中



## 令和5年 特別国民体育大会 燃ゆる感動 かこしま国民体育大会 長野県少年男女一次選考会

○令和5年1月28日(土)、29日(日)、  
2月4日(土)、5日(日)

東信…小諸市武道館、北信…須崎市弓道場、  
中信…松本市弓道場、南信…駒ヶ根市弓道場  
参加者…男子217名中35名通過、  
女子264名中38名通過

### ■北信地区

#### ▲男子通過選手 10名

- 松山 光矢(長野日大)
- 宮澤 歩夢(長野日大)
- 関口 大耀(長野日大)
- 小林 千暉(長野日大)
- 宮澤 蒼太(長野日大)
- 水野 祐樹(長野日大)
- 廣川 颯介(長野日大)
- 服部 悠生(長野日大)
- 塚田 羽紅(北部)
- 信藤 賢治(屋代)

#### ▲女子通過選手 10名

- 山本美沙季(長野日大)
- 宮尾優亜良(長野日大)
- 西澤 来春(長野日大)
- 牛山 愛菜(長野日大)
- 島田 栗那(長野日大)
- 山本里々杏(長野日大)
- 田籠 乃愛(中野西)
- 丸山 りの(長野商業)
- 堀井 華琳(文化学園)
- 丸山 心暖(文化学園)

### ■東信地区

#### ▲男子通過選手 7名

- 坂本 和弥(佐久長聖)
- 松永 日向(上田染谷丘)
- 藤井 溪伍(上田染谷丘)
- 近井 大記(上田千曲)
- 土屋昂太郎(小諸)
- 大塚 倅成(小諸商業)
- 小平 巴琉(小諸商業)

▲女子通過選手 8名

- 佐々木愛李(岩村田)
- 澤井 梓(岩村田)
- 谷津 琉那(岩村田)
- 関戸葉奈瑛(佐久長聖)
- 黒澤 萌(上田東)
- 伊藤 樹里(小諸商業)
- 尾沼 優菜(小諸商業)
- 中條 美織(小諸商業)

■中信地区

▲男子通過選手 8名

- 唐沢 隆太(松本県ヶ丘)
- 栗津原悠大(松本県ヶ丘)
- 武田 直玖(松本県ヶ丘)
- 武居 龍我(塩尻志学館)
- 松田 倅弥(木曾青峰)
- 黒田 隼矢(松本美須ヶヶ丘)
- 百瀬 椋太(松商学園)
- 富成 祥万(松商学園)

▲女子通過選手 10名

- 岡澤 優那(大町岳陽)
- 黒木 花鈴(松本美須ヶヶ丘)
- 横澤 咲幸(松本美須ヶヶ丘)
- 栖村 友希(木曾青峰)
- 小林 珠緒(塩尻志学館)
- 吉野ひより(塩尻志学館)
- 宮下 由菜(塩尻志学館)
- 野村 愛夏(松商学園)
- 柴田 結(松商学園)
- 百瀬 美紅(松商学園)

■南信地区

▲男子通過選手 10名

- 松下 大和(飯田OIDE長姫)
- 手塚 新太(飯田OIDE長姫)
- 飯塚 遙己(高遠)
- 飯島 翔生(高遠)
- 登内 琉真(高遠)
- 青木 翔大(伊那弥生ヶヶ丘)
- 北原 朋弥(伊那弥生ヶヶ丘)
- 矢沢 敬大(諏訪二葉)
- 宮澤 蒼杜(諏訪二葉)
- 久保田一輝(諏訪二葉)

▲女子通過選手 12名

- 北原 花音(赤穂)
- 村田枝美佳(赤穂)
- 橋爪 里奈(伊那弥生ヶヶ丘)
- 北原野乃華(伊那弥生ヶヶ丘)
- 木下 鈴菜(伊那弥生ヶヶ丘)
- 浦野 友衣(伊那弥生ヶヶ丘)
- 本部 遥香(伊那西)
- 高井 優瞳(伊那西)
- 井坪 要(伊那西)
- 田口 唯花(飯田OIDE長姫)
- 高橋 正枝(諏訪二葉)
- 宇佐美瑞菜(飯田女子)

昇段昇格者

▼「名古屋」定期中央審査会

- ▽六段の部 大和 邦浩(塩尻支部)
- 清水 北登(須高支部)
- ▽教士の部 松下はるみ(長野支部)

訃報(敬称略)

長野県弓道連盟 佐久支部  
 四段 塩澤 順子(70歳)  
 令和5年3月1日(水)  
 逝去されました

ここに謹んで哀悼の意を表し、  
 お知らせ申し上げます。

弓道雑学

自転車で行きながら前輪を右側から見ると時計回りに回転(右回転)している。そこで身体(車体)を左に傾けると、勝手にハンドルは左に切れる。ハンドルをわざわざ切らなくても身体を左右に傾けるだけで曲がりたい方向に自転車は曲がる。このハンドルが切れる仕組みはくるくる回っている物が持つ固有の性質で歳差運動という。子供の科学館等で展示されている、回る椅子に座って、自転車の回転するリムを持ち、そのリムを傾けると傾けた方に椅子ごと自分が回ると言うやうである。

飛んでいる甲矢を射手目線で見ると時計回りに回転(右回転)していて、次第に頭を下げながら的に向かっている。この甲矢を安土に向かつて左側の観覧席から見ると、甲矢の回転は上述の車輪の回転と同じ(甲矢は脇正面側に向かつて転がっていくような回転をしている)。矢が徐々に下向きになるのは、車体を左に傾けることと同じである。こうなるとあとは自転車のハンドルと一緒で、矢は左に曲がる。つまり矢は左側の右側に外れて飛んでいく。乙矢は矢の回転が逆なので、右側の右側に外れて飛んでいく。

ちょっと小難しい話になったが、地上における日本の矢の運動は自転車と一緒で、放物運動で矢が傾くことが車体を傾けることと同じなため、甲矢、乙矢それぞれ自動的に左、右にハンドルが切れて飛んで行く。厳密にきつかり弓が引けたら、甲矢、乙矢は左進右退ではないが、的の中で左、右と綺麗に並ぶことになる。甲矢乙矢が左右に並ぶ話は一度ここで書いた気もするが、この話、筆者が思いついたものではなく、会社の先輩の師匠であった千村先生が仰っていたことを、その先輩から聞いたものである。前述の話はその内容を物理的に解釈したものである。甲矢乙矢の回転の向きを逆にすることで矢の衝突を回避して、しかも左右に甲矢乙矢が並ぶようにしているというのは、先人の面白い知恵だ。

上伊那支部 手塚信一郎

寄稿・投稿大歓迎です! ぜひお近くの広報部員まで!

広報部員

- 大塚利恵子(北信担当)
- 下田 広美(南信担当)
- 榛葉 良美(中信・編集担当)
- 篠原 沙知(東信担当)
- 手塚信一郎(HP担当)
- 前田 涼(HP担当)
- 中田 美千(編集担当)